

1 焦点を当てる

① 園の特徴的な活動に焦点を当てる

毎年、子どもたちが熱中する遊びや恒例になっている活動には、子どもたちが魅力を感じる園の特徴や子どもの心を捉える独自性のある展開があります。

以下の事例は、恒例になっている活動に焦点を当てて子どもの理解を深めることが、保育の工夫に繋がっています。更にその工夫により体験が豊かになる子どもたちを理解することは、「科学する心」が育まれる実態を捉えることに結び付いています。

「ヒマワリを栽培しよう」 4歳児

学校法人横山学園 新屋幼稚園

〈保育者の願い〉 4歳児は、気付いたり不思議に思ったりしたことを試す経験を重ねている。子どもの発見、つぶやきを、保育者が敏感にキャッチして認めることで子どもの満足感を支えたい。友達の気付きをみんなに伝え、感動を共有できるような場をつくりたい。

〈きっかけ〉 5歳児から、ヒマワリの種を引き継いだ4歳児の子どもから「小さい種からどうやって大きなヒマワリになるんだらう？」という疑問の声が聞かれた。そこで、毎年4歳児が栽培しているヒマワリとの関わりに焦点を当て、「なぜだらう？」「不思議だな」という思いを大切に受け止め、種から注目してヒマワリを探ることにした。

①種を見る…予想してみる

「芽は横から出るよ」
「1つの種から芽が出るのは1つじゃないよね」
「上からも出るよ」



「芽は、尖った先からまっすぐ出るよ」
「ヒマワリの花は大きいから、根っこはたくさん出るよ」
「丈夫でないとね」



「根っこは丸いおしりから出るんじゃないかな」
「芽はきつと種のまん中から出るよ」



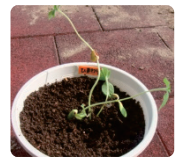
子どもたちは種から芽が出ることや、どこからどのように芽を出して生長するのか予想することを楽しめる。小さな種に注目し、様々に考えを巡らせている。

②育てる…いろいろなことに気付いたり疑問をもったり大きく育てる栽培の喜びを味わったりする

水栽培をする



芽や根の様子が分かるように予想したので、種から芽が出る様子をよく見る。「尖った方から芽が出た」「ニョロニョロへびみたい」「根っこは小さい」と、いろいろなことに気付く。芽や根がどこまでも伸びると思っていたが、色が茶色になり枯れてくる。「土がないと、水だけではだめ」「栄養がないんだ」「根が小さいから」などと考えを巡らせる。土が良いと話し合い、鉢に植え替える。



プランターに植える

保育室近くのいつでも見える所にプランターを置いて育てる。元気に育っていったが、プランターの場所によっては、カビが生えたり芽が小さかったりして育ち方が違うことに気付き疑問をもつ日当たりや雑草の生え方が違うことを発見する

花壇に植える

グングンと伸びることが分かり、よく観察するようになる。花壇は少し離れているが、張り切って水遣りや世話をする。



③かかわりを深める…表現を楽しむ

見たこと気付いたこと知ったことを表現する
親子ヒマワリ製作やひまわり日記を楽しむ。表現したことを通して、気付いたことや疑問を確かめ、みんなで共有する。（関連事例P.25）

好奇心、探求心を深める

種に興味をもち、種を使って製作遊びをする。「茎の中はどうなっているのか見たい」「種の数、味を知りたい」という思いやいろいろな気付きをし、協力して確かめる。遊びながら種への関わりを深める。